

令和7年度地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業

# 医療現場の業務DXに資する AI人材育成に向けた学科転換事業

## 第1回合同会議

(企画推進委員会/プログラム開発委員会/実証・検証委員会)

令和7年7月22日 14:00~16:00

進行資料

# アジェンダ

---

議題 1. 事業概要、並びに令和7年度の活動計画について

議題 2. 委員における最近のDX・AI技術の導入や環境変化の状況の共有

議題 3. AIを用いた実証授業の進捗報告

議題 4. 人材育成目標と評価に関する課題提示・意見交換

議題 5. 実証授業・実証実習の展開イメージ

# 議題 1. 事業概要、並びに令和7年度の活動計画について

## ■目的

医療事務の実務を支える診療情報管理士について、情報システムの基本的な仕組みへの理解やAIリテラシーの向上と病院実習を重視した育成カリキュラムへと移行することで、医療DXを牽引する人材を輩出し、地域医療の質向上と持続可能な医療システムの構築に寄与する。

## ■背景

### 社会動向

#### 医療DX令和ビジョン2030

- ・全国医療情報プラットフォームの創設・医療DX推進機構の設置
- ・電子カルテ情報の標準化・普及
- ・診療報酬改定に伴うDX推進

### 医療現場の課題

#### 医療情報管理に加え、活用への展開

- ・医療データの分析・活用に基づく経営
- ・医療DX導入によるサービス向上・効率化

#### 医療DXの実務を支える人材の不足

- ・情報システムの基本的な仕組みへの理解
- ・データの土台を整備し、分析結果を経営に生かすためのスキル

### これからの診療情報管理士に求められる能力

#### 病院において医療DXを推進できる能力・スキル

- ・ITに関する基礎理解
- ・医療制度等の基本知識
- ・AIやビッグデータを活用する知識
- ・医療経営への応用できるアウトプット能力
- ・医療現場で適切に連携・情報共有ができるコミュニケーション能力 等

資格取得中心の教育モデルから、

医療DXに対応した実習重視の診療情報管理士の育成カリキュラムへの転換

# 議題 1. 事業概要、並びに令和7年度の活動計画について

## AI人材イメージ ※令和6年度議論から

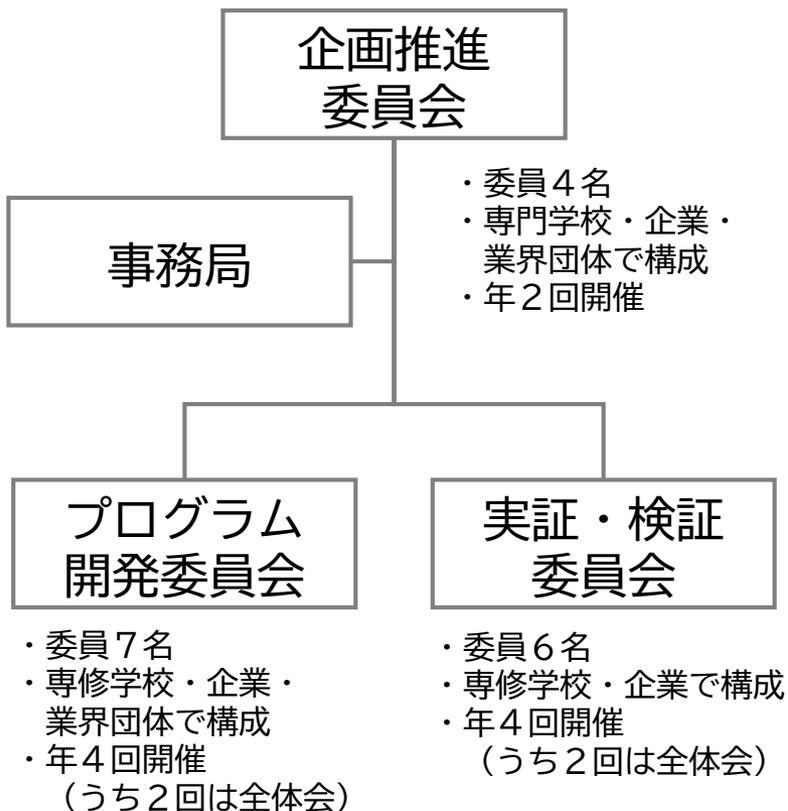
バックオフィス業務・医療事務業務の効率化について、AIを活用<sup>(1)</sup>して、診療情報管理士として必要な知識・情報から医療現場のニーズに基づく改善プロセスの実践<sup>(2)</sup>を企画・実施できる人材

育成像と教育要件(仮説)		該当するカリキュラムの変更・追加部分
(1) AIを活用 【主に生成AI】	<ul style="list-style-type: none"><li>医療システム運用に向け、まずは業務効率化の観点から、AI技術を導入・活用できる</li><li>➤ 業務改善プロセスでのAI技術の活用</li><li>AI活用に関する自己学習を続けるための基礎知識・素養が身につけている</li><li>➤ 業務内へのAI技術の導入</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>IT・AIリテラシー</li><li>データ分析・統計学(データサイエンス)</li><li>医療情報技師対策授業(プログラミング、ネットワーク構築、データベース管理、セキュリティ対策等)</li><li>実習のアップデート</li></ul>
(2) 改善プロセス の実践	<ul style="list-style-type: none"><li>医療現場と情報技術の橋渡しをすることができる</li><li>医療現場の業務分析と改善プロセスの考え方を習得している</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>IT・AIリテラシー</li><li>医学的知識、専門用語</li><li>コミュニケーション</li><li>実習前後指導等</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>業務改善に向けてデータを用いて検証しながら進めることができる(なぜそういえるか、説明できる)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>データ分析・統計学</li><li>実習のアップデート</li></ul>

# 議題 1. 事業概要、並びに令和7年度の活動計画について

## 実施体制と期待される役割

### 【実施体制】



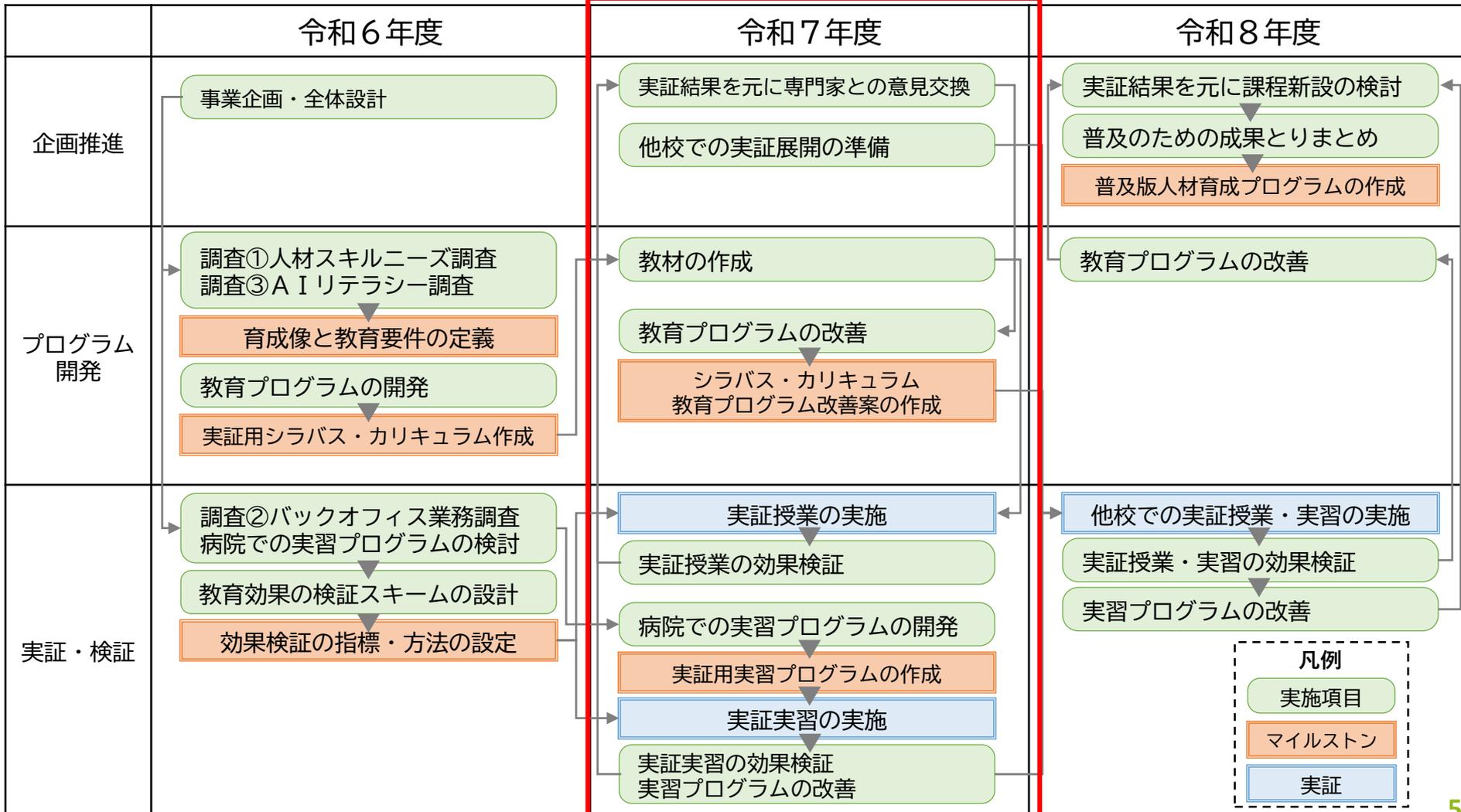
### 【各委員会の役割】

委員会	役割
企画推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事業方針や進捗状況、予算執行管理等の統括</li> <li>・事業計画および予算執行に関する管理を担当。</li> <li>・両委員会の進捗状況および会計等事務処理を監督する。</li> <li>・事業推進における課題の洗い出しと対応策の検討。</li> <li>・本事業の普及施策を検討する。</li> </ul>
プログラム開発委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育プログラム開発に必要な情報の調査、教育プログラム開発</li> <li>・病院等にヒアリングを行い、診療情報管理士に求められるスキルや知識を特定する。</li> <li>・特定した必要スキル、知識を分類し、教育カリキュラムに反映させる内容を確定する。</li> <li>・上記をもとに教育プログラムの開発（カリキュラム、シラバス、コマシラバス等）を行う。</li> </ul>
実証・検証委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実証・検証方法の検討、実証・検証結果に基づく改善事項の提案</li> <li>・開発したプログラムの実証方法（授業・実習）の検討、効果の検証を行う。</li> <li>・検証結果をプログラム開発委員会にフィードバックする。</li> </ul>

# 議題 1. 事業概要、並びに令和7年度の活動計画について

## 3年間の事業フローとマイルストーン

- 調査事業は事務局中心に実施。開発・実証・検証は各委員会を開催しながら委員協力のもと実施する。



# 議題 1. 事業概要、並びに令和7年度の活動計画について

## 令和7年度の実施予定

### ●実証授業（2025年4月～2026年3月）

- 2025年4月入学のAI&診療情報管理士科の新入生を対象に、令和6年度に開発したカリキュラムと、教育効果検証スキームの実行
- 麻生医療福祉&保育専門学校と事業に参画いただいている専修学校での実行

### ●調査事業（2025年6月～12月）

- 病院現場における医療事務業務、データ分析の2つの領域における業務環境の調査
  - 1, 就職していく対象としている特定機能病院などの医療機関におけるバックオフィス業務の現状調査
  - 2, クラウドサービス、生成AI等、最先端テクノロジーを現場に導入、もしくは導入検討中の病院での業務環境、そこで働く人材のスキルセット調査

### ●開発事業（2025年5月～2026年3月）

- 1, 教育プログラムにおけるクイックな振り返りとシラバスの修正
  - 令和6年度作成のシラバスを実行し、同年度に開発した習熟度計測スキームを活用し、学生の習熟度を随時把握しながら適宜シラバスの内容をアップデートする。
  - 教員の教授スキル向上についても同様に計測し、教員用指導マニュアルを作成する。
- 2, 専修学校における生成AI、データ分析領域の教員トレーニング
  - 令和6年度委員会での意見交換の際、教員調達の難易度が高いことが判明したことを受け、業界の専門職を招聘、採用する以外の方策として、既存教員のトレーニングを実施する。
- 3, 病院における実証実習のプログラム開発（継続）
  - 委員会に参加する医療機関の委員と、病院実習でバックオフィス業務効率化を図るために必要なプログラムを完成させる。
    - ①診療情報管理士の基本的な役割と責任を理解し、医療情報の収集、整理、保管、分析の方法を学ぶ。
    - ②AIを用いたデータ管理と分析の実践スキルを習得し、医療データの効率的な活用方法を学び、実務に応用する。
    - ③AIツールを活用した業務の効率化方法を学ぶ。医療データの分析を通じて診療の質向上や経営改善に貢献するスキルを身につける。

# 議題1. 事業概要、並びに令和7年度の活動計画について

## 令和7年度の会議開催予定

- 以下のスケジュールで日程調整を予定。議題は進捗に応じて変更・調整。

### 【議題予定】

9月ごろ	第1回プログラム開発委員会	各教育機関が導入時に必要となるツール・サポートや、実際の導入可能性に関する意見交換
	第1回実証・検証委員会	基準となる実証用実習プログラムの内容、並びに今後の実習受入に向けた意見交換
12月ごろ	第2回プログラム開発委員会	(仮) AI人材育成に向けた評価 / 導入支援ツール・サポートの継続検討等
	第2回実証・検証委員会	(仮) 実証実習の進捗・準備状況 / 業務環境の調査報告等
2026年 2月ごろ	第2回全体会議	<ul style="list-style-type: none"><li>プログラムの進捗共有</li><li>次年度計画に関する意見交換</li></ul>

## 議題2. 委員における最近のDX・AI技術の導入や環境変化の状況の共有

### 趣旨

- 日進月歩でDX・AI技術が進化しており、半年前にはできなかったことが実現できたり、現場での実装例も増えてきている。このような状況を踏まえ、前回2月の会議以降、各委員の現場でのDX・AI技術の導入状況の変化や、DX・AI技術や環境の変化について、各委員からご共有頂きたい。

例：

- 「いま注目しているDX・AI技術」
- 「現場におけるDX・AI活用がどう変化してきたか」
- 「DX・AI活用に対する現場スタッフの意識がどう変化してきているか／変化していないか」
- 「DX・AI活用に対する学生／患者の意識や対応はどう変化してきているか／変化していないか」
- 「DX・AIについて注目している国策や研究開発の動向（技術面・倫理面等）」

## 議題 3. AIを用いた実証授業の進捗報告

---

麻生塾にて4月よりAI & 診療情報管理士科で実施してきた  
実証授業の進捗説明

※別資料

# 議題4. 人材育成目標と評価に関する課題提示・意見交換

## 実証授業を通じて見えてきた課題

- AI人材に関する育成目標と、その評価の難しさ（生成AIを活用して学ぶこと自体を評価する限界）
  - エピソード例 評価ハック
    - AI活用に関する学習目標、評価点を提示すると、それを生成AIを用いて対応する／すぐに超えてくる学生、一度の結果を張り付けるだけの学生、プロンプトを見る限り生成AIとのやりとりが見られない学生もいる。
    - しかし、評価基準を示さないとなると、学生としてはどこまで取り組みればよいか、わからなくなる。

## 課題の解決に向けたトライアル

- 生成AIのアウトプットを”活用”することを重点化した実証授業の実施
  - 学校の事務局で業務効率化の目線で実際に仕事をしてもらう。
  - 教員・事務員にプレゼンする、教員・事務員とコミュニケーションをとる等、生成AIでカバーできない学生のパフォーマンス部分を、評価することを試みる予定としている。

## 議題4. 人材育成目標と評価に関する課題提示・意見交換

### • 意見交換の論点

- 実証授業を見てきた課題について、どう対応していくとよいか、それぞれの立場から意見交換をしたい。
  - 医療現場
    - AI人材が入ってきたときに、どういった視点から評価をすると思うか
    - AI人材を受け入れる上で、実証実習ではどういった点を評価したいか
  - 教育現場
    - AI人材を育成するときに、どういった評価方法がマッチすると思うか  
(アウトカム・アウトプット・パフォーマンスなど)
    - AI人材を育成するときに、どういった教育方法がマッチすると思うか  
(ロールプレイング・演習形式、コーチング形式、事例研究、プロジェクト学習など)
- キーワードを出し合い、項目を整理しながら議論を進める
  - 5分 : キーワードの書き出し (ポストイット、チャット)
  - 30分 : キーワードを共有しながら意見交換  
(出されたキーワードは事務局でmiro上でポストイット化して画面共有)

# 議題 5. 実証授業・実証実習の展開イメージ

---

- 令和8年度までの展開イメージ
- 令和7年度内の実施事項
  - 令和7年度内の実施項目
  - 令和8年度に向けた準備事項